

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

|                  |   |      |               |
|------------------|---|------|---------------|
| 課題番号             | 26000001                                | 研究期間 | 平成26年度～平成30年度 |
| 研究課題名            | 人口減少社会における、経済への外的ショックを踏まえた持続的発展社会に関する分析 |      |               |
| 研究代表者名<br>(所属・職) | 馬奈木 俊介<br>(九州大学・工学研究院・教授)               |      |               |

【平成29年度 研究進捗評価結果】

| 該当欄  |    | 評価基準  |
|--|----|---|
|  | A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる                                |
|  | A  | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる                           |
| ○  | A- | 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
|  | B  | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である                                |
|  | C  | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である                |
| <b>(評価意見)</b>  |    |   |
| <p>これまでの持続可能性を考慮した経済成長モデルは、データの制約等からその実証分析が十分になされてこなかった。本研究課題は世界規模のデータ収集を行い、データベースを構築するとともに、大震災等の外的ショックを考慮した実証分析を行っている。幸福度等の主観的項目を加味した指標の構築にも取り組んでおり、当初目標に向けて概ね順調に研究が進展している。</p> <p>一方で、幸福度のような主観的指標と主流派の経済成長モデルとの乖離を十分考慮した分析ができていくかという点、疑念が残ると言わざるを得ない。主観的福祉指標についての研究の掘り下げが望まれる。</p> <p>以上より、当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である。</p> |    |   |